

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100740		
法人名	ティーシーブラネッツ有限公司		
事業所名	グループホーム遊空間 2F		
所在地	島根県松江市南平台11-1		
自己評価作成日	令和4年2月4日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念をもとにその人らしい生活が継続できるよう、ご利用者一人ひとりの出来ることに目を向けやっていたり、またご利用者と職員が協力して日常生活を送る場面作りにも力を入れ、生き生きとした暮らしにつながるよう支援している。コロナ感染症予防対策のため外出や面会を制限している中で、少しでも活気や笑顔のある生活につながるため、屋内行事の充実など努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員が協力しあい、日々利用者が笑顔で生きいきと暮らせるように理念に沿った支援に努めている。コロナ禍の為、外出や人との交流など制限や自粛が強いられるが、家族の要望に応じてガラス越しの面会を実施したり携帯電話での対応を支援するなど、利用者や家族の思いを大事にした支援をしている。毎月の行事や週ごとの取り組みを計画し、体操や歩行運動、外気浴、脳トレ、買い物事業所内に売店を設けて行うなど、職員は工夫して利用者が楽しめるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内の壁に掲示し意識できるようにしている	「理念」と「支援の手引き」を掲示して意識付けしている。日々職員はその日の目標を決めて業務を行い、振り返り話し合い業務日誌にて共有して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため地域行事が減少しており参加できていない 散歩時に挨拶程度は行なっている	地域行事も自粛でなくなり、利用者には周辺の散歩や外気浴で地域の人と出会う機会を作り挨拶を交わしている。お菓子やウエス、手づくりのテーブル敷きなどを持参してくれる人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日光浴や散歩時に利用者との関わりを地域の方も交えて行ない、認知症の人の理解や支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を資料配付にて行なったが意見や要望などはなく報告のみとなっている	紙面にての会議となり資料を添えて報告をしているが意見や提案はあまり出ない。意見を出してもらえるためにどうすればいいか課題として捉え検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の抱えてる問題を市の担当者に相談し解決に向けて検討してもらっている	日頃より情報交換を行っている。利用者の個々の問題についても生活福祉課、介護保険課等と相談し対応してもらい取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にてアンケートなどを用いて職員一人ひとりが具体的に考え、身体拘束をしないケアを実施している	スピーチロックについて職員にアンケートを行い、「拘束とは何か」「言動での拘束」「自分の家族が受けたらどう感じるか」を考えるなど意識的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて利用者との関わり方を振り返り虐待につながる内容がないか確認したり、貼り紙で意識できるようにし防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についていつでも確認できるようになっている 制度が必要と思われる利用者については市の担当者に相談も行なっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明し、重度化や看取り、医療連携体制については同意を得るようにしている 状態の変化があった場合の対応についても説明し理解してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から何でも言っただけの雰囲気作りを心がけている 入居時には外部の機関も伝えている	家族との関係を築いて意見を聞くことに努め、コロナ禍の中で要望に応え面会や携帯電話で話ができるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とはいつでも話せることができ、職員も気軽に意見や提案を伝えることが出来ている 代表者は職員の意見を参考に運営に反映させている	日頃より職員との対話を大切にしている。早朝や正月勤務の労働条件の改善や環境整備など、安心して介護に携われるように職員の意見や提案を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や職員が心身共に健康で働けるよう相談にのっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は受けることができていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナや職員不足のため他施設との交流はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や事業所からの情報をもとに本人との面談を行ない、家族や本人が抱えている不安を理解した上で入居してもらう 入居されたら不安を軽減できるよう傾聴している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が抱えている不安、家族が抱えている不安を理解し、良好な関係が築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前から状況の把握に努め、地域のケアマネジャーと相談しながら支援を行なっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることはなるべく継続できるように支援し、日常生活の中で利用者と職員が協力できる場面作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が出来ない状況の中、電話やお便りで様子を伝え、本人とも電話で話してもらい家族の関係も継続できるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外部との交流が減っており、馴染みの人との交流が困難になっている 手紙や電話での交流や日光浴や散歩時の会話などは継続できている	家族と協力し、馴染みの人との関係や場との関係が途切れないよう外出や墓参りなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が時々言い合いになったりすることもあるが、さりげなく職員が間に入り、家事やレクリエーションなどを一緒に行ない利用者同士の良好な関係ができるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院入院された方への面会や情報提供など行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの情報をもとに意向の把握に努めている 普段から本人と会話を多くするようにし思いを聞くようにしている	日々の対話の中で興味ある話題から本人の思いや希望を把握し、わかり易い言葉での問いかけや表情などから思いを理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や入所後も本人や家族からの情報を得るようにし生活歴を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からの生活リズムを把握し、体調や表情をみてその日の過ごし方も相談しながら支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や職員の意見は反映しているが、家族の意見が少ない 日々の記録から利用者の状態変化や課題をみつけ介護計画を作成している	介護計画に沿った支援が出来るように記録用紙が工夫されている。利用者の優れている事や得意としている事を取り入れ支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を細かく記録し、情報共有し介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買物など対応している また遠方の家族の代わりに病院入院対応も行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との情報交換や移動販売車での買物、訪問による理容サービスを受けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診することができ、職員がかかりつけ医と情報交換しながら支援している	協力医により2週間に1回定期往診がある。通院受診は家族対応としているがほとんどが事業所対応で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を訪問看護師に伝えており、体調の変化等あればすぐに相談し指示を仰ぐことができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は早く退院できるように、施設でのリハビリも含め医師に相談している日頃から施設の方針や退院時に施設で出来ることを医師には理解してもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期について説明し同意をもらっている 実際に重度化した場合も家族、かかりつけ医と話し合いを行なっている	入居時に家族に事業所の方針を伝えてい。かかりつけ医や協力医療機関の指示のもと、入院治療が必要になるまでは事業所として出来る限りの対応を行い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行なっている 備蓄品についても定期的に確認している	定期的な避難訓練や点検を実施している。車イスの設置場所の再検討を行った。利用者も訓練に参加してもらっている。地域の防災隊の理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけや対応を心がけている	利用者の出来ることは応援し、出来ない部分は寄り添いさりげなく支援し、言動に注意しながらその人の人格を尊重し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話をし本人の思いを聞くようにし、思いを表すことが出来ない方は表情から読み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりの希望に合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った物、本人の好みに合わせた身だしなみが出来るよう支援している 化粧道具なども本人の希望に合わせてそろえている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったりや行事に合わせたメニューなどを出し、食事が楽しみになるようにしている 食事作りや片付けも利用者の出来ることに合わせ手伝ってもらっている	行事が減る中で飲食に工夫し、喫茶の日や庭での昼食会、たこ焼き、バイキング、鍋物など楽しみのある食事提供をしている。利用者にも出来ることに参加して手伝ってもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	様々な食事形態に対応しており、その日の利用者の体調に合わせて調整も行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っており、利用者に合わせて支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて排泄の支援を行なっている	トイレでの排泄を大切な自立維持と捉え、利用者をしっかり把握して声掛け、誘導、介助を行い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事、水分量の確保、適度な運動を心がけ、自然排便になるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間帯以外は基本的にいつでも入浴が可能となっている 入浴を嫌がられる方には無理強いせず、時間や日にちをずらして誘っている	利用者の状況に柔軟に対応している。安心して気持ちの良い時間を楽しんでもらえるように入浴剤や季節に合わせた湯など工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調をみて日中は適度に休んでもらい、夜間安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はいつでも確認できるようになっており、薬の変更があった場合も記録し情報共有できるようにしている 服薬については職員複数で確認し合い、誤薬がないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や趣味などから役割を作りやってもらっている 本人の希望で飲酒したり、食べたい物があれば可能な限り提供するようにしている 毎月お楽しみ昼食の日もある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩で戸外には出ているが、多くの人と接触するような場所には出かけていない 墓参りなどは感染対策を行なった上で家族と行ってもらっている	行事としての大きな外出は出来なくなった。天候に合わせて外気浴や周辺の散歩に出かけている。個別支援で家族の協力を得て感染対策を行い墓参りをした人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心のため少額のお金を持っておられる方や移動販売車にて買物をされる方がおられる 施設内では菓子や雑貨品などを準備して売店を開き、お金を使う機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話が出来るように支援し、手紙のやりとりも出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の場には写真等で壁面を飾り、季節の花も生けてある 室温の調整も換気しながらこまめに行っている	利用者の作品や季節に合わせて利用者と一緒に作った作品や写真、生花が飾られている。清掃や室温、換気をこまめに行い気持ちよく過ごせる環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の場である食堂はいつでも使うことが出来る 食堂以外にも畳コーナーがあり自由に過ごしていただくことが出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を置いてもらっている 状態の変化に合わせて配置等も変えている	家族の協力を得て本人が居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。使い慣れた家具、持ち物や大切な家族の写真、仏壇を持って来ている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に行動できるよう移動の障害になる物はなるべく置かないようにし、居室やトイレなどには目印をつけ迷わないようにしている		